

接続助詞に前接する品詞について

—コーパスから見える南モデル—

中俣尚己
(京都教育大学)



1. はじめに—南モデルとコーパス—



南(1974)で提示された接続助詞の分類 (南モデル)

- その後も多くの研究がおこなわれてきたが、近年ではコーパスを利用した研究が盛ん。
- データを基に南モデルを検証、A類・B類・C類のさらなる違い。
- これまでの研究はモダリティ（助動詞）の共起可能性やレジスターの検証が主流(ナロック2006, 丸山2014b)。
- 本研究ではこれまでほとんど鑑みられてこなかった「前接語の品詞」に注目、新たな研究分野を開拓したい。

2. 研究のきっかけ

—日本語教育の立場から—

中俣(2014)『日本語教育のための 文法コロケーションハンドブック』

■ 103の文法項目について
前接語のリストを
作成した。

■ 配列は「動詞→
形容詞・名詞」

てしまう

基本的意味

接続 動詞のテ形 表現 ~てしまう

その出来事が完了したことを表す用法と、その出来事が非意図的であり、望ましくない結果であることを表す用法がある。

- ▶「もう、夜の11時になってしまいました。」(完了)
- ▶「すみません、教科書を忘れてしまいました。」(非意図)

前にくる語 (コーパス | 教科書)

順位	動詞	出現数	%	教科書に多い動詞	順位 / 6,252
1	なる	14,059	15.24%	やる	19位
2	する	3,496	3.79%	食べる	23位
3	行く	1,685	1.83%	壊れる	40位
4	言う	1,445	1.57%	なくす	44位
5	忘れる	1,257	1.36%	(風邪を) ひく	45位
6	思う	1,121	1.22%	書く	55位
7	なくなる	1,115	1.21%	落とす	61位
8	死ぬ	1,115	1.21%	飲む	70位
9	消える	1,089	1.18%	覚える	85位
10	出る	933	1.01%	読む	128位

※出現数 = 92,258 ※動詞TOP10のカバー率 = 26.24% 生産性 = 高

茂木俊伸氏（熊本大）からの疑問

- Q：「動詞→形容詞・名詞」という順番は、コーパスに依拠したものか？
- A： 依拠していない。
- 現状、ほとんどの初級日本語教科書が「動詞→イ形容詞→ナ形容詞→名詞」という順で例を提示している。
- この順番は現実の日本語を反映しているのだろうか？一律に同じ順番で良いのだろうか？

(当初の) リサーチ・クエスチョン

- それぞれの文法項目は
どのような品詞とよく共起する
のだろうか？
- →コーパス調査の結果を
洗いなおしてみよう。



3. 方法



検索方法

- 中俣(2014)のデータを再利用。
(一部で追加調査)
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を
「中納言」の長単位検索モードで検索。
- キーの品詞を指定。後方共起語として、
直後または1つ助動詞を挟んで対象の
文法項目を設定。

具体例

- 食べる / から → 動詞の検索対象
- 食べ / た / から → 動詞の検索対象
- 食べ / られ / た / から
→ 検索対象ではない

名詞とナ形容詞で接続にコピュラを介する場合

- 静か / だ / から → ナ形容詞の検索対象
- 静か / だっ / た / から
→ ナ形容詞の検索対象
- 静か / だっ / た / のだ / から
→ 検索対象ではない

収集した例文数

が	228,201	ても	99,382
から	110,738	と	233,151
けど	55,694	なら	44,626
し	63,117	ので	80,576
たら	95,297	のに	35,020
たり	79,291	ば	158,326

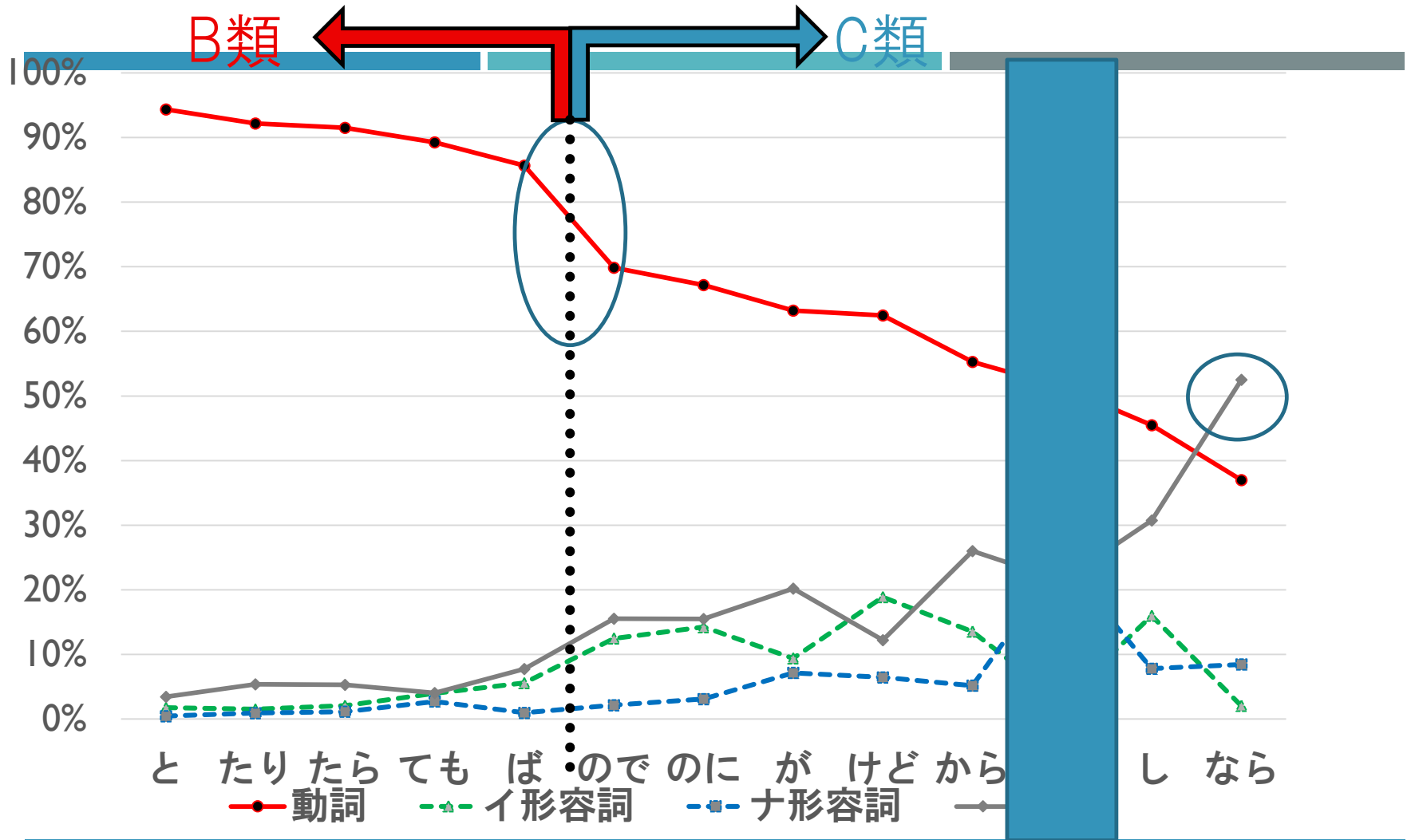
**接続助詞10形式、1,283,419例を分析
＋文末辞17形式、729,497例**

4. 結果

- 4. 1 B類とC類の接続助詞の比較
- 4. 2 南モデルの修正案との比較
- 4. 3 C類と文末辞の比較

4. 1 B類の接続助詞とC類の接続助詞の比較

	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞



4. 1

B類とC類の接続助詞

図1
接続助詞の前接品詞の割合

- 「ば」と「ので」の間に最も大きな差がある。
- 前接品詞のパターンは「**「ので」「のに」以外のB類**」と「**C類**」に分かれる。
- 「ので」と「のに」は南(1974)ではB類だが、C類ではないかという指摘も多い(田窪1987など)。

(1) 太郎は受験を控えているので、
家族は気をつかっている。

(2) 弟はおもちゃを買ってもらえたのに、
私は買ってもらえない。

➤ **控えめに言ってもB類とC類の間、
踏み込んで言えばC類であると示唆される。**

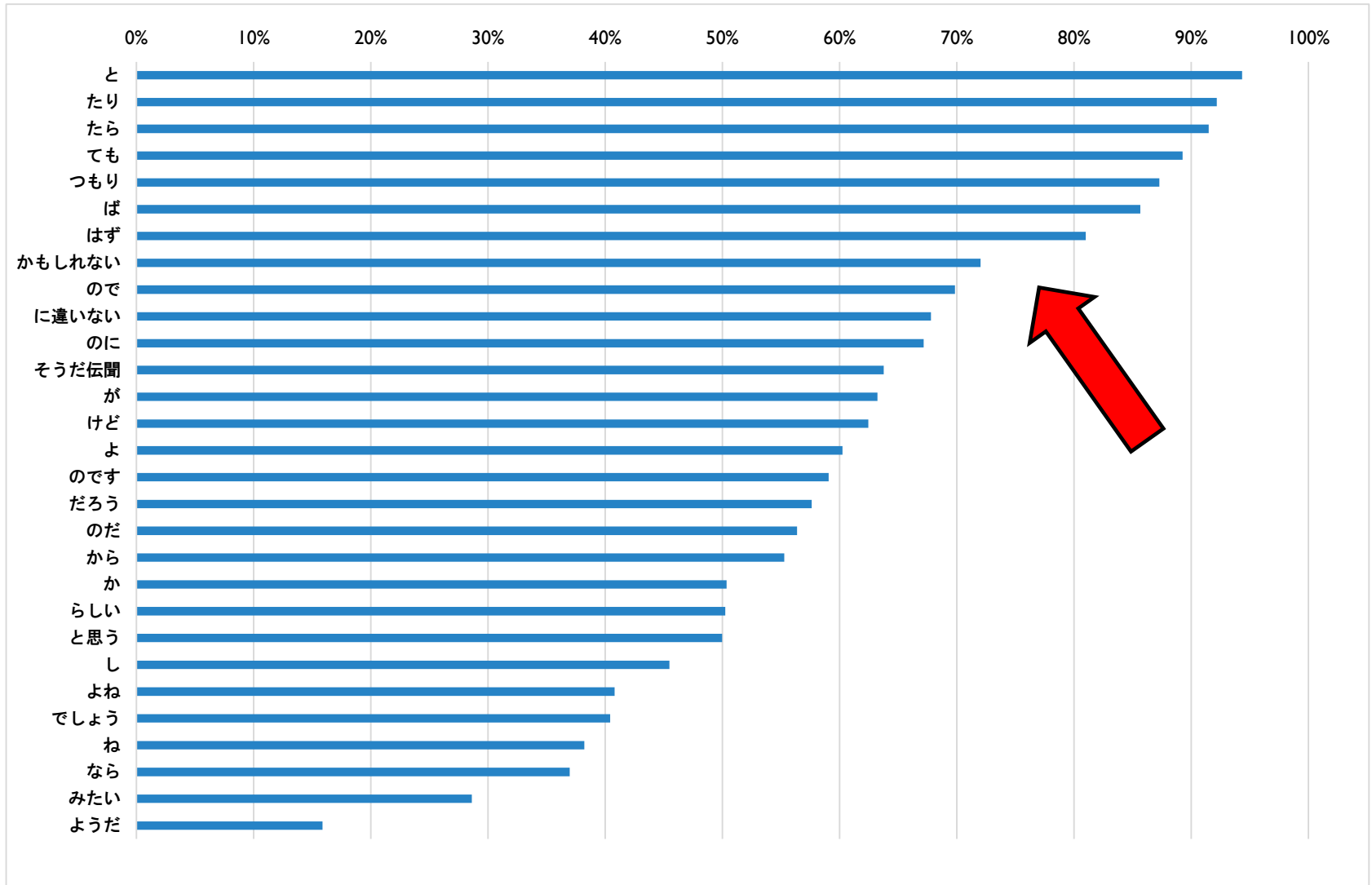
4.2 南モデルの修正案との比較

- ◆ 尾上(1999) 「南モデルは三つの異なる観点が錯綜している」
 - 観点 α 「従属句相互の包含可能性」
 - 観点 β 「その従属句がどのような句中成分を含み得るか」
 - 観点 γ 「その従属句がどのような助動詞を含み得るか」

表2 尾上(1999)の観点「による分類

尾上(1999)の分類	接続助詞	動詞率
Y1類 どんな助動詞も含み得ない句	<u>ながら・つつ</u>	100%
Y2類 ナイのみを含み得る句	<u>て (情態修飾)</u>	100%?
Y3類・4類 テイル・ヨウダ・ソウダ (様態) まで含み得る句	ば・たら・と・ たり・ても	94%~ 86%
Y5類 タ・ラシイまで含み得る句	なら・ので・の に・ <u>て (並列)</u>	67%~7 0%
Y6類 すべての助動詞を含み得る句	が・から・け ど・し	45%~6 3%

4. 3 C類と文末辞の比較



境界線のありか

- 「と」「たり」「たら」「ても」「ば」 B類
- 「はず」「つもり」 名詞由来
- 10%ほどの壁
- 「かもしれない」「に違いない」 複合辞
- 「ので」「のに」 準体助詞？

文末辞は名詞由来か否かで動詞率が変わる。

- 私 {が／*は} 買った本
- 連体修飾節は
B類の節と同様に主題を持たない。
- 名詞由来の文末辞の動詞率はB類に近い。

- 文法化の度合いとも一致？
つもり (87%) <はず (81%) <
ので (70%) ・ のに (67%)

表3 節のタイプによる品詞の割合の平均値の比較

	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞
B類接続 助詞平均	84%	6%	2%	8%
C類接続 助詞平均	57%	14%	7%	22%
文末辞 平均	54%	12%	5%	28%
※ 主節	44%	5%	3%	47%

主節における品詞の割合とは

- 主節の行は擬似的に、文末から3語以内に該当の品詞が来るかどうかという条件で検索した（食べ/た/。 ← 文末から3語目が動詞。）
- しかし、この方法では見出しなども含まれ、名詞の割合が非常に高くなる。
- むしろ、文末辞がついた箇所の方が主節の実態に近いかも。
- C類は非常に文らしく（ほぼ文とイコール）、B類はそれとだいぶ異なる。

C類のみが終助詞化する

- (3) ここに置いておくから。
(後が想定できない)
- (4) やってみればば。
(どう?)
- (5) ここに置いとくんで。
- (6) 最後の問題さえあってれば、100点だったのに。

5. 考察

- 5. 1 なぜ品詞と南モデルが関係するのか？
- 5. 2 動的述語と静的述語の割合
- 5. 3 偏りの原因として考えられること
- 5. 4 A類とは何か？

5. 1 なぜ品詞と南モデルが関係するのか？

■ 「形容詞文・名詞文は主題の「は」をとって措定文になることが多い。主題はC類相当成分なので、B類には入らない。よって、措定文が大部分を占める形容詞文・名詞文は、B類では少なくなる。

■ 「形容詞は主観を表すのでモダリティの
ようなもの。」

➤ 一見これらの説明が成り立ちそうだが、さらに検討が必要なデータが存在する。

5. 2 動的述語と静的述語の割合

- C類は形容詞だけでなく、動詞の中に占める存在動詞（いる・ある）の割合も高い。
- B類の存在動詞率は9%以下、
C類の存在動詞率は15%以上。

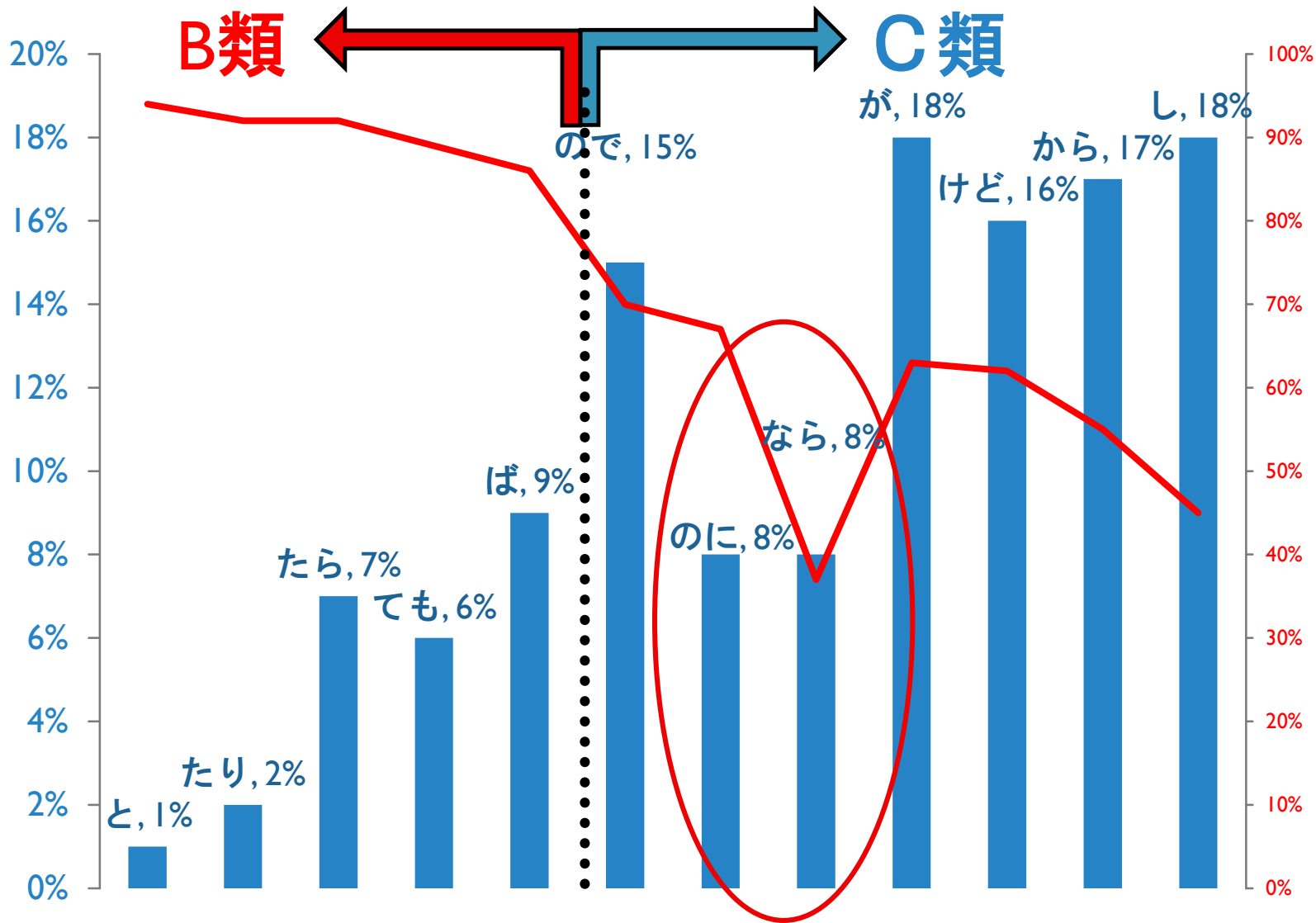


図3 接続助詞の存在動詞率

↑存在動詞率

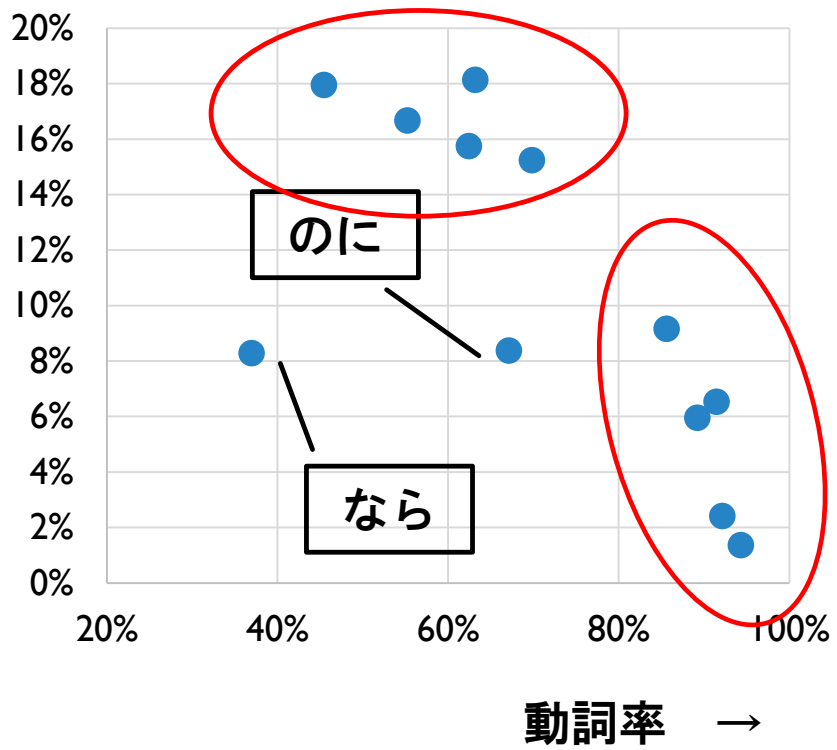


図4 「ある」「いる」率と動詞率

r=-.94

↑「ている」形率

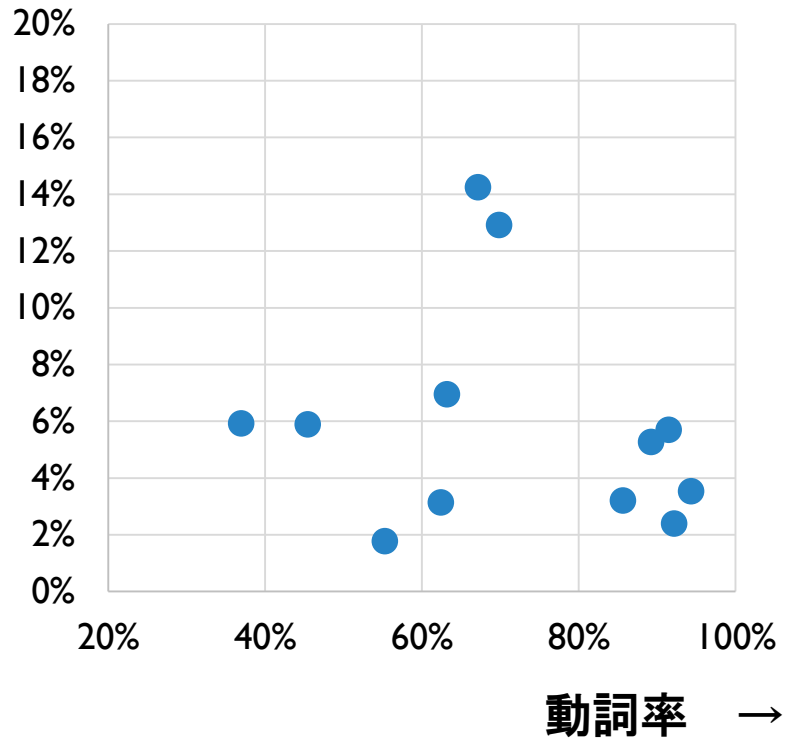


図5 「ている」形率と動詞率

r=-.15

ここまでの調査結果をまとめると

- 「本質的な静的述語
（イ形容詞・ナ形容詞・名詞・
存在動詞述語）はB類の節には
出現しにくい。」

5. 3 偏りの原因として考えられること

■ 仮説 1

「B類は事態を表すため、判断に属する形容詞などはB類に現れにくい」

田窪(1987)

A類 動作

B類 事態

C類 判断

D類 伝達

南(1974)

A類 描叙

B類 判断

C類 表出

D類 伝達

仮説 1 の問題点

- 「ある」「いる」などの存在動詞も「判断」を表しているのか？
- 確かに「私には兄弟がいる」などは属性・判断と考えやすい。
- しかし、「鯨はオキアミを食べる」もまた属性・判断である。
- コーパスの例文から「事態」か「判断」かを循環を避けて決めるところに手法的な困難がある。

5. 3 偏りの原因として考えられること

■ 仮説 2

「B類はテンスの対立をもたないため、ル形が現在を表す静的述語は現れにくい。」

有田(1999)

完全時制節

ルとタが両方生起可能かつテンスの対立を持つので・のに

C類

不完全時制節

ルとタの両方あるいはいずれかが生起しないか、
テンス的意味を持たない

B類

仮説2の問題点

- なぜ、不完全時制節には、ル形が現在を表す
静的述語が生起しにくいのかという謎は残る。
- 動的述語のル形.....未来
静的述語のル形.....現在
-といった表面的な対立ではなく、
何か非対称的な違いが存在するのか。

5. 4 A類とは何か？

- A類とは動的述語率が100%の接続助詞と換言できる。
- 田窪(1987)はA類の接続助詞として「て」(様態)、「ながら」(同時動作)、「つつ」、「ために」(目的)、「まま」、「ように」(目的)をあげる。

「ながら」の意味ごとの品詞率(森2014)

■同時動作の「ながら」

.....100%動詞と言ってよい。

■逆接の「ながら」

.....動詞率は65%、

本研究のデータに照らすとC類並。

(南1974などではB類)

6. おわりに—コーパスと南モデル—

6. 1 ひとまずの帰結

6. 2 日本語教育への提言

6. 3 今後の展望

6. 1 ひとまずの帰結

- コーパスを使った調査から、B類の節においては、C類の節や主節と比較して、静的述語の出現は抑制されることがわかった。「ので」「のに」にはこのような抑制は強く観察されず、これらはC類に近いと結論づけられる。

6. 2 日本語教育への提言

- それぞれの文法項目は
どのような品詞とよく共起する
のだろうか？
- →コーパス調査の結果を
洗いなおしてみよう。

6. 2 日本語教育への提言

- 文法項目の前の品詞はだいたい
動詞→名詞→イ形容詞→ナ形容詞
の順に多い。
- 動詞から導入することには根拠がある。
- 名詞は意外と多い。

イ形容詞とナ形容詞の非対称性

- BCCWJ語彙表によれば、イ形容詞とナ形容詞の出現頻度はほぼ等しい。
- 文法項目の前を見ると、だいたいナ形容詞の方が少ない。
- イ形容詞は述定、ナ形容詞は装定に偏る？

6. 3 今後の展望

- 本研究はCorpus Driven Approachによる分析。
- 従属節の分類は三尾(1942)の丁寧化率に遡る。
- 元来コーパスから出発したもの(丸山2014a)
- 三上(1972)
 - ◆ ガ・ケレド・カラ・シ
 - ◆ ノデ・ノニ
 - ◆ ト

6. 3 今後の展望

- Corpus Driven Approachは思いも
しなかったところに発見がある。
- 思いつくあらゆることを変数にして
やってみる価値がある。
- Biber(1988)流の計量文体論的な手法
(Dimension)を取り入れた文法研究。

丸山(2014B)

- 「テキストの硬さ、軟らかさ、客観的か主観的か、改まった書き言葉かくだけた書き言葉か、などといった差 (中略)さらに、書き手の性別・年齢・読者対象、執筆年代といった、テキスト自体に付随する書誌情報や、名詞率、MVR、TTR、**品詞構成比率**などといったテキスト自体から得られる統計的指標なども、文法形式の分布の違いを説明するための手がかりになりうると考えられる。」